安全にお使いいただくために

ご使用の前に

・ご使用の前にこの「安全にお使いいただくために」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

・お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

⚠ 警告

■表示された電源電圧以外の電圧で使用しない

表示された電源電圧（交流１００ボルト）以外の電圧で使用しないで下さい。

火災・感電の原因となります。

■異常なときは使わない

煙が出ている、変な臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源を切り、煙が出なくなることを確認してから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

■電源コードに傷をつけない

電源コードに傷をつけたり、加工したり、破損したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりするとコードが破損し、火災・感電の原因となります。

■電源コードが傷んだら交換する

電源コードの芯線が露出したり、断線したときは交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■発火や引火の危険性がある場所に設置しない

ガスなどが充満した場所に設置すると、火災の原因となります。

■分解したり、異物を入れない

ケースを開けて内部に触れたり、金属類や燃えやすいものなどを入れないでください。火災・感電の原因となります。

■改造しない

この機器を改造しないでください。

火災・感電の原因となります。

⚠ 警告

■落下するおそれのある場所に設置しない
もろい材質の天井板（および壁面）に設置しないでください。
落下してけがの原因となります。

■不安定な場所に置かない
ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

■塩害や腐食性ガスの発生する場所に設置しない
取付部が劣化して落下などの事故の原因となります。

■ねじや固定機構はしっかり締め付ける
締め付けがゆるむと落下などでけがの原因となります。

■振動、衝撃のある場所では使用しない
落下してけがの原因となります。

⚠ 注意

■温度・湿度については、使用環境で定めてある範囲で使用する

この機器の設置環境は使用環境で定めてある範囲で使用してください。内部の温度・湿度が上がり、火災や故障の原因となることがあります。

■この機器の上にものを置かない

バランスがくずれたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

■振動や衝撃の加わるところには置かない

この機器に振動や衝撃が加わると、火災や故障の原因となることがあります。

■引火性ガス、腐食性ガスのあたるところには置かない

この機器の周囲に引火性ガスや腐食性ガスがあると、火災の原因となることがあります。

■保守点検について

保守点検を販売店にご相談下さい。機器内部にほこりがたまったまま、長い間掃除しないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、保守点検の費用については販売店にご相談ください。

■上に乗らない

倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。

ＲＭ－１７形　電動雲台
取扱説明書

１．はじめに

日立ＲＭ－１７形電動雲台は、ＣＣＴＶカメラを収納したカメラケースを搭載して、遠隔制御によりカメラ部を任意の監視方向に向ける目的に使用する、屋外・屋内兼用の防雨・防塵形電動雲台です。本雲台の制御は、専用の制御器によって行われます。

なお、本雲台では、固定部に端子箱を設けていますので外線を直接引込め、カメラケース内の電動ズームレンズやその他の機器の制御ケーブルも雲台内部を通して接続できるようになっています。

本器はオート反転回路が標準装備されているので、目的により連続自動反転動作をさせる事ができます。

1993-12-9483207～16 1/10 SI
RM-17

２．標準構成

（１）電動雲台本体		１
（２）付　属　品	入力接続用端子	２４

３．仕　様

３．１定　格

（１）種　別	屋外一般及び屋内　JIS C 0920-×4（防まつ型）及び IP-54 に準ずることとします。（但し、防水性は正立据置取付時とします）
（２）電　源	ＡＣ１００Ｖ±１０％　４５VA　単相
（３）消費電力	４０Ｗ
（４）外線接続	端子台数接続（接続ケーブル 1.25 mm^2 以下）
（５）外形寸法	２１９（W）×２５０（H）×２４５（D）mm
（６）質　量	約７．４kg

３．２性　能

（１）回転角度	水平　左１７５°、右１７５°（計 350±5°） 垂直　上　２０°、下　７０°（計　90±5°）
（２）回転速度	水平６°／s（50Hz）７．２°／s（60Hz）（±0.5°/s） 垂直３°／s（50Hz）３．６°／s（60Hz）（±0.5°/s）

0 000094 832075

（３）回転トルク	水平　８．８Ｎ･ｍ{ 89.7 kgf･cm}（50Hz）
	７．８Ｎ･ｍ{ 79.5 kgf･cm}（60Hz）
	垂直　３１Ｎ･ｍ{316.2 kgf･cm}（50Hz）
	２９Ｎ･ｍ{295.8 kgf･cm}（60Hz）
（４）搭載質量	１６kg以下(ただし重心点は取付面中央で高さ６０㎜以下、前後３０㎜以内とします。)
（５）耐風条件	動作可能：４０ｍ／ｓ　非破壊：６０ｍ／ｓ
（６）周囲温湿度	－１０～＋５０℃、３０～９８％
（７）使用条件	水平連続、垂直のみ間けつ(連続使用の場合３０分以下)

４．その他　　本雲台とカメラケース間は専用ケーブル(オプション）で接続願います。

1993-12-9483207~16 2/10 SI
RM-17

0 000094 832075

■積載物の重心位置について

●積載物の重心(G)が下記図１に示す重心位置変動許容範囲内に来る様に取付けてください。
●重心が許容範囲外にありますと、積載可能質量内であっても動かなくなったり、歯車の寿命が短くなります。

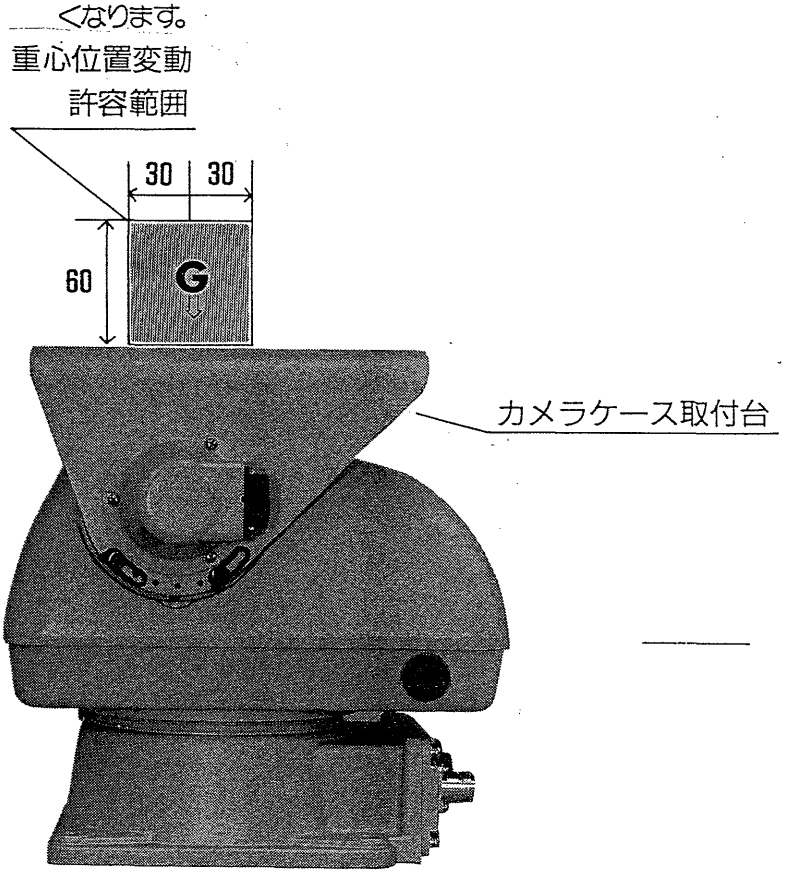
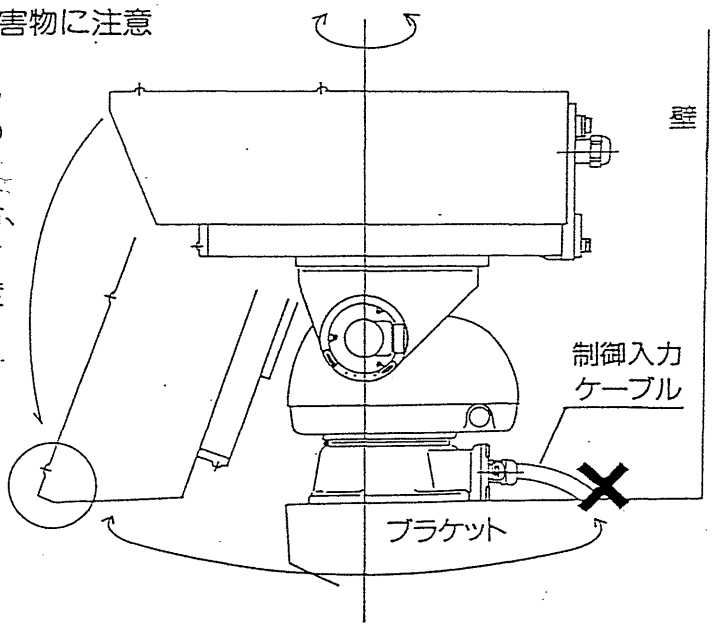


図1

■カメラケースの先端と周囲の障害物に注意

カメラケースを搭載して旋回させる場合、カメラケースの先端が、周囲の柱や壁にぶつからないようご注意ください。特に最大に下向きにする場合、カメラケースの先端が、制御入力ケーブルにぶつからないよう配置や角度に気をつけて調節してください。



1993-12-9483207-16 3/10 SI
RM-17

0 000094 832075

■旋回角度の調節のしかた

●本機は出荷時には、上20°・下70°・左右各175°の最大旋回角度に設定してありますが、取付け場所・使用目的などにより狭くする必要が生じたときは、下記の方法で調節してください。
●旋回角度の変更は外部からプラスドライバーで出来ます。

ご注意　☆角度の変更をおこなう場合は、制御器操作者とよく連絡をとり、安全におこなってください。
☆角度目盛盤は付いていませんので、動作試験により確認してください。
☆吊下げ取付けの場合は、上下左右の語は、下上右左と読みかえてください。

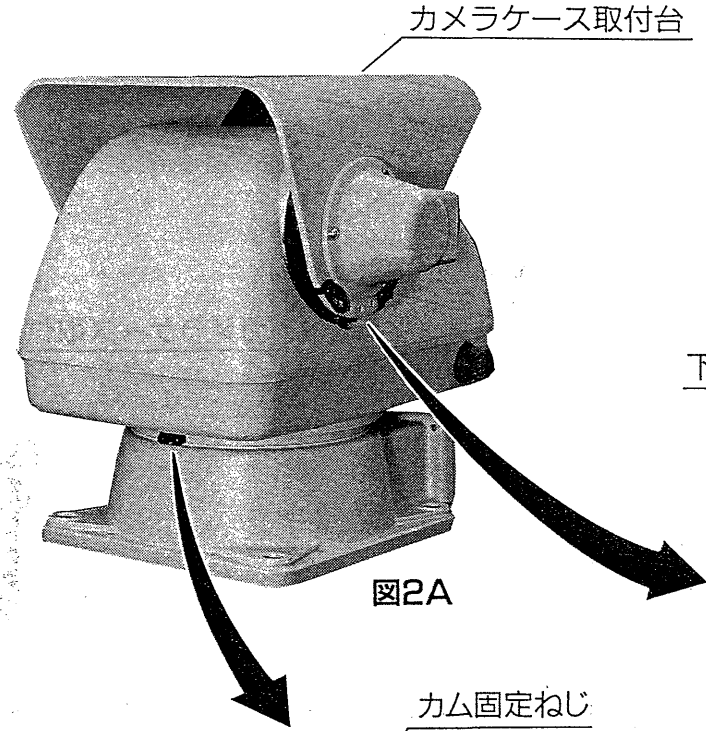


図2A

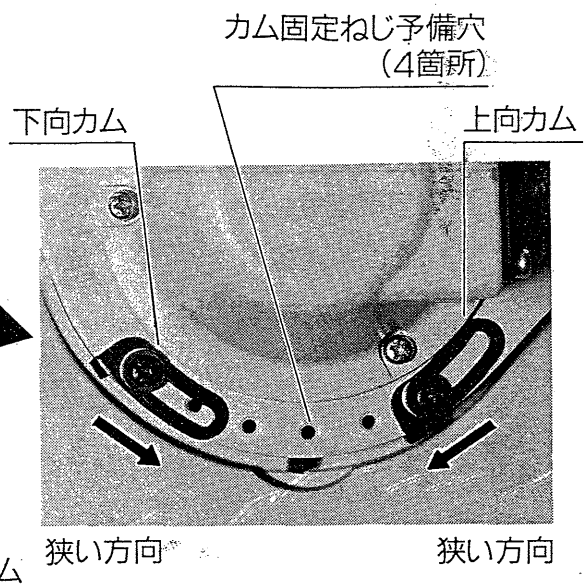


図2B

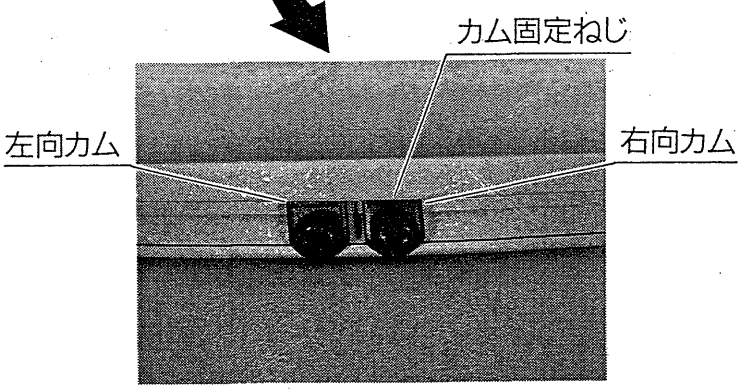


図2C

■水平旋回角度の調節のしかた
●カム固定ねじを2回転ゆるめて、カムを矢印方向へずらし、目的の位置に固定してください。

■上下旋回角度の調節のしかた
●カム固定ねじを1回転ゆるめて、カムを矢印方向へずらし、目的の位置に固定してください。
●カムの移動量が足りない場合は、カム固定ねじを隣の予備穴に植えかえてください。

1993-12-9483207-16 4/10 SI
RM-17

0 000094 832075

■カメラケースの取付けかた

（1） 図3 のようにカメラケースを取付け、ボルトで本機にしっかりと取付けてください。

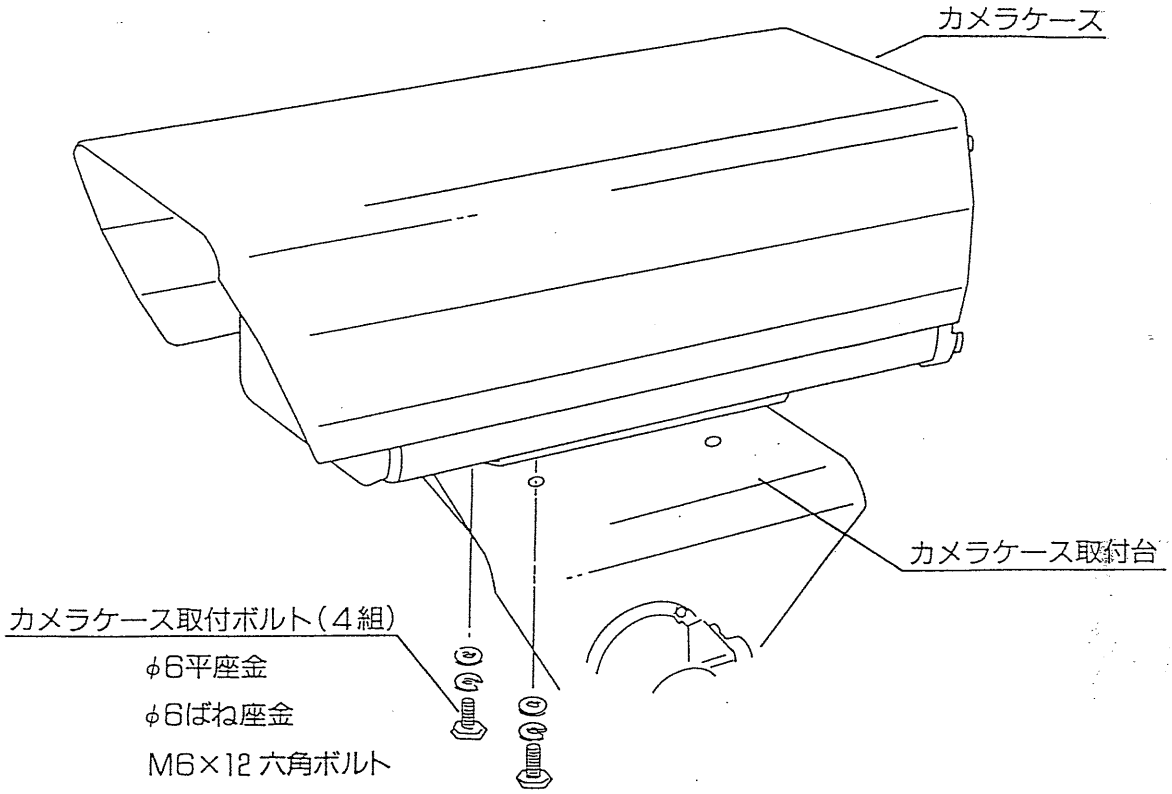


図3

1993-12-9483207~16 5/10 SI
RM-17

0000094832075

■出力コネクターの方向転換のしかた

本機を吊り下げて設置する場合は、前後が逆になりますから、カメラケース出力コネクターの向きを180°変更してください。

●出力コネクター・ブロック固定ねじ3本を外し、ブロックを180°回転してから、再度固定してください。

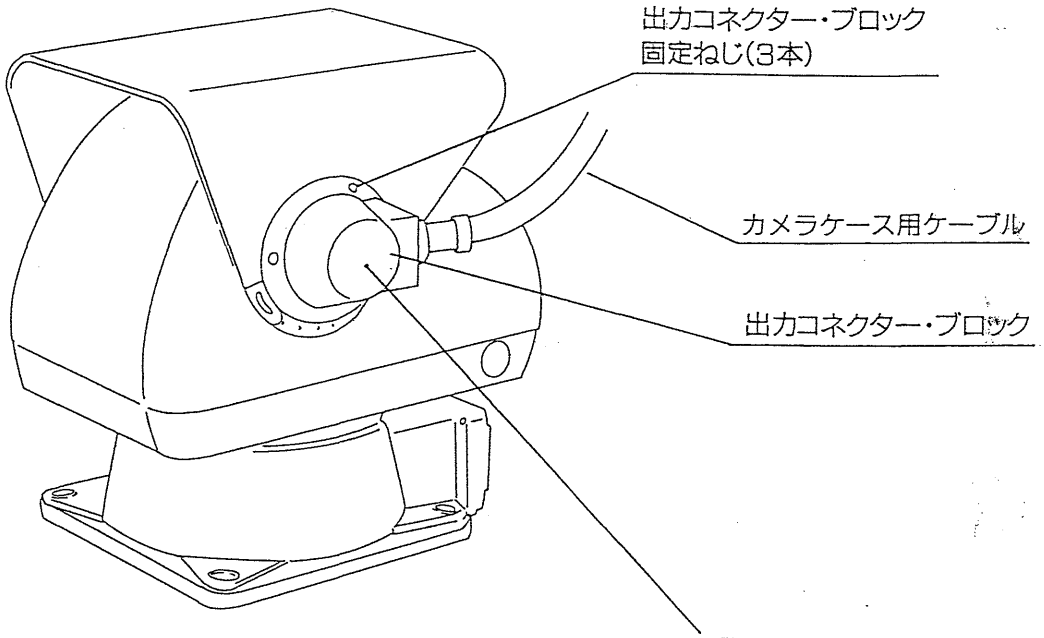
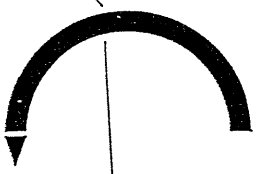


図4A



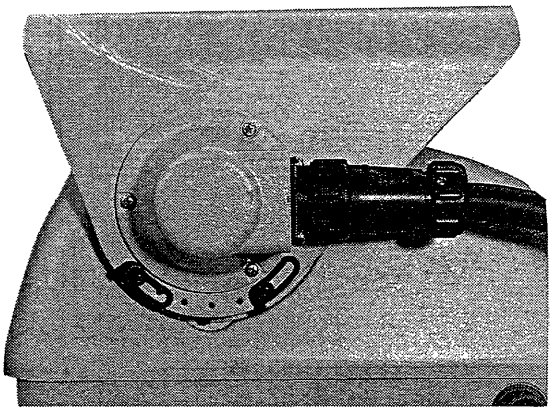


図4B
正立取付

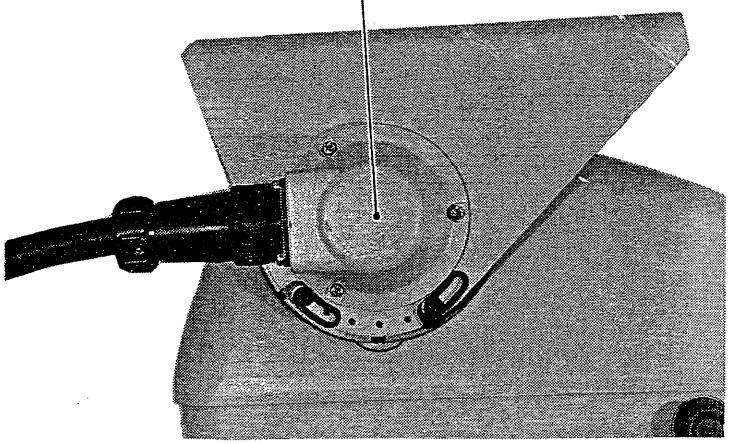


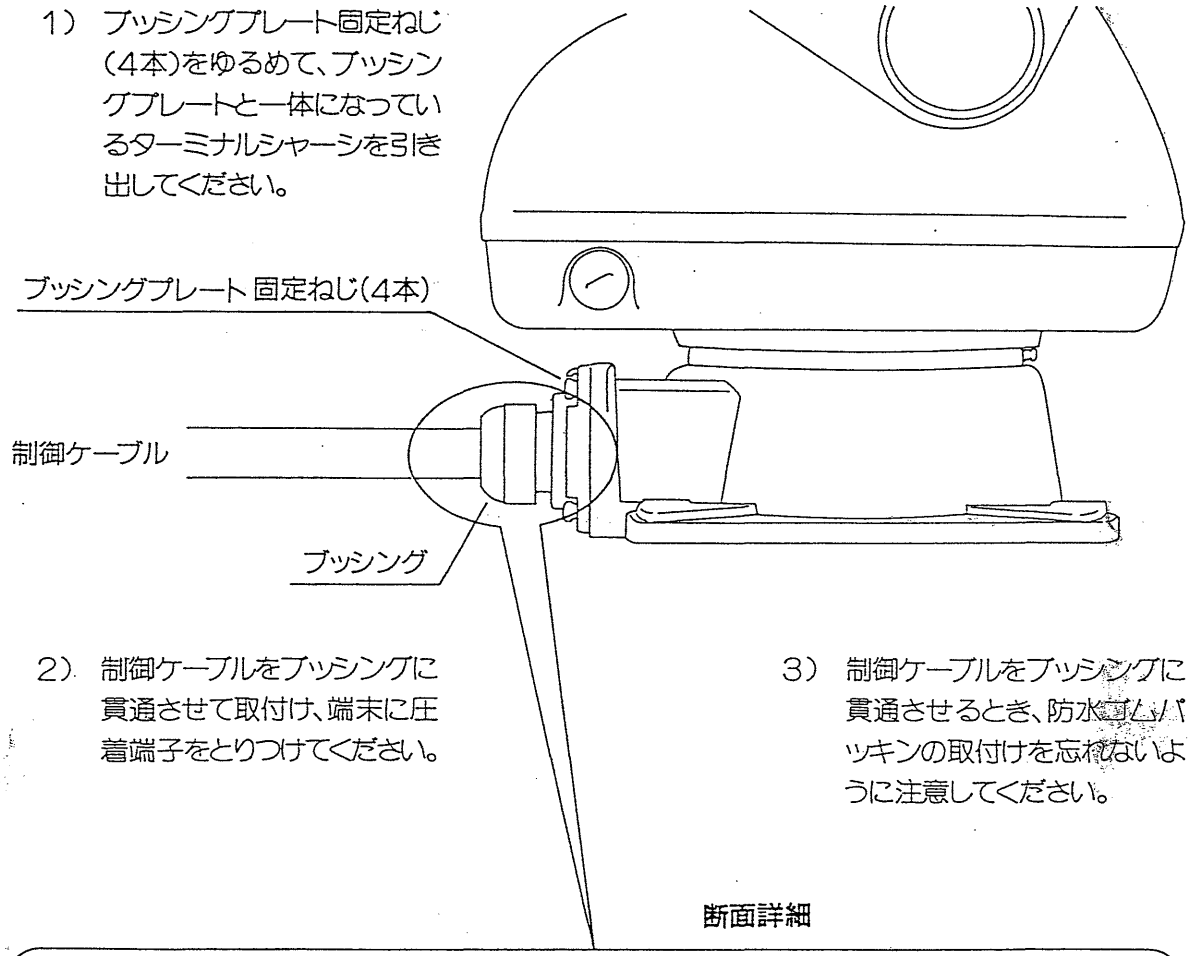
図4C
吊下取付

1993-12-9483207~16 6/10 SI
RM-17

0000094832075

■制御ケーブルの取付け方

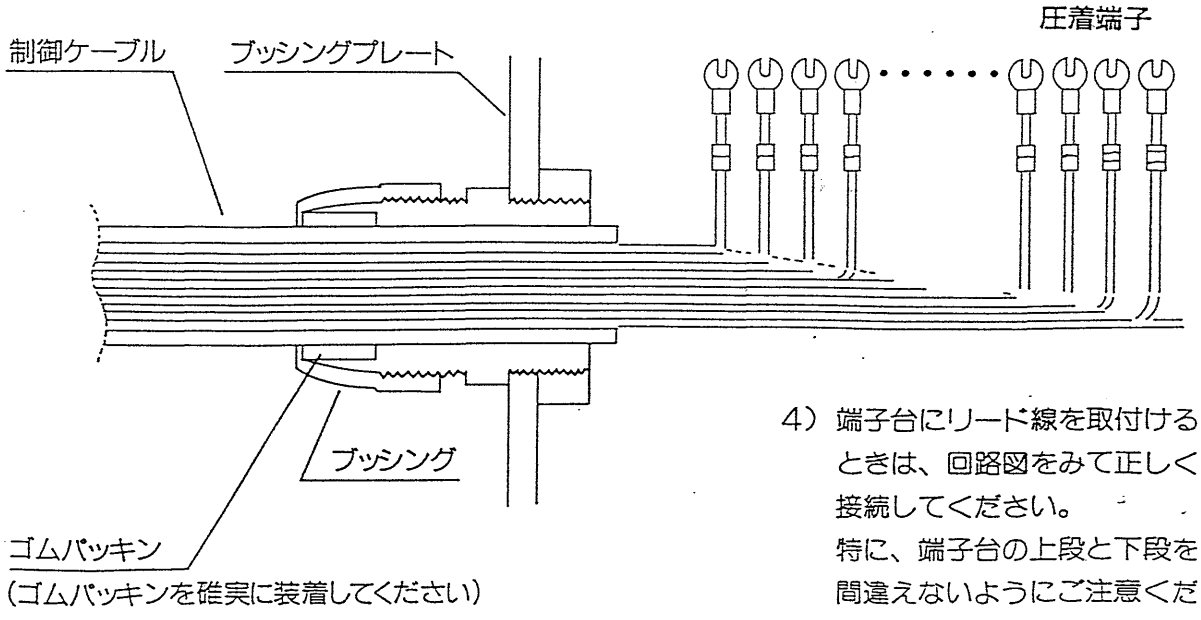
1） ブッシングプレート固定ねじ(4本)をゆるめて、ブッシングプレートと一体になっているターミナルシャーシを引き出してください。



2） 制御ケーブルをブッシングに貫通させて取付け、端末に圧着端子をとりつけてください。

3） 制御ケーブルをブッシングに貫通させるとき、防水ゴムパッキンの取付けを忘れないように注意してください。

断面詳細



4） 端子台にリード線を取付けるときは、回路図をみて正しく接続してください。
特に、端子台の上段と下段を間違えないようにご注意ください。

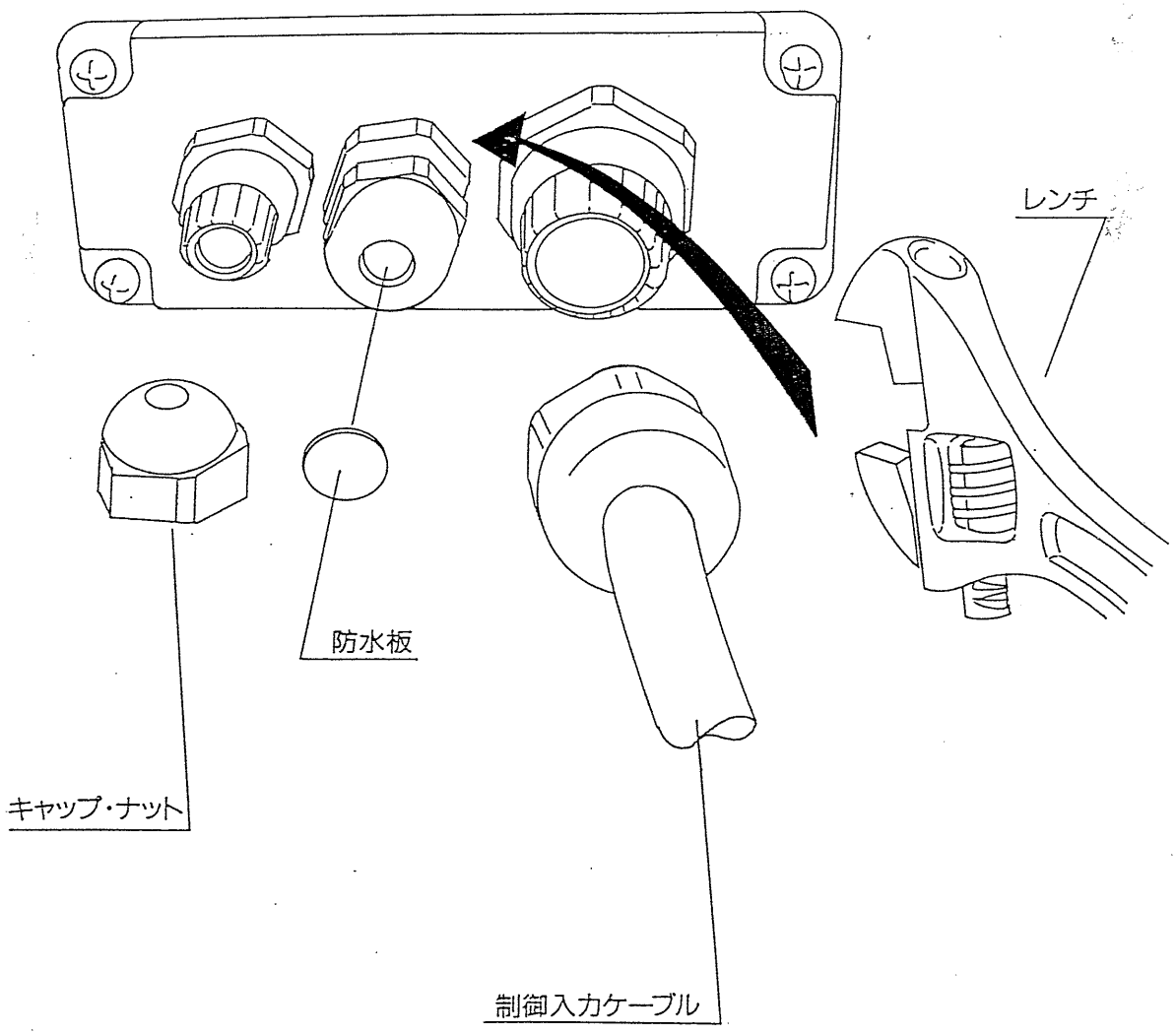
1993-12-9483207~16 7/10 SI
RM-17

0 000094 832075

■キャップ・ナットの締付手順

●RM-17形の遠隔制御入力ケーブル用ブッシングは、3個装備されているため、間隔がせまくなっております。
したがって、キャップナットの取付け手順が悪いとレンチが使えない場合が有りますので、下記の手順を参考にして締付けてください。
手順A：一番左のキャップナット、次に真中、最後に一番右のキャップナット。
手順B：真中のキャップナット、次に左または右のキャップナット。

※ご注意　入力ケーブルを接続しないで、屋外に本機を放置される場合は、必ずケーブルの代わりに防水板を取付けておいてください。

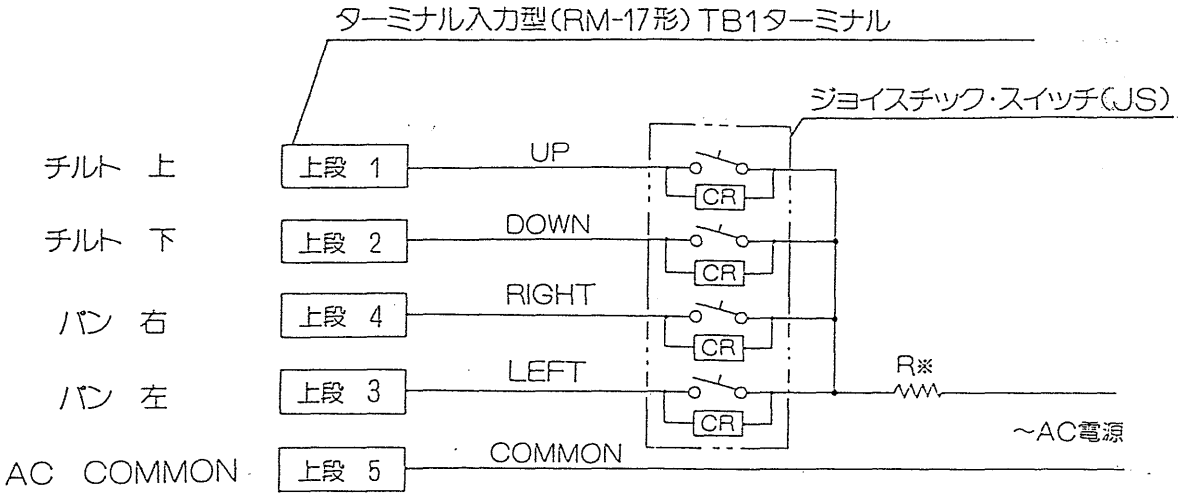


1993-12-9483207-16 8/10 SI
RM-17

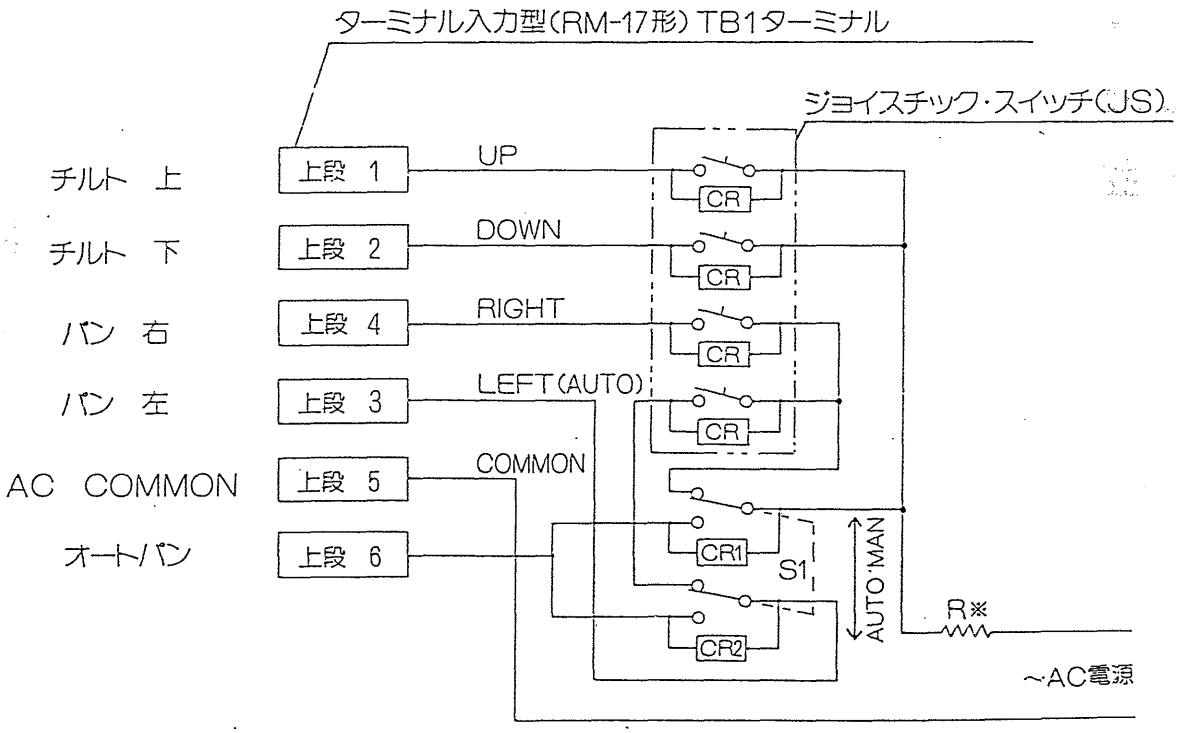
0000094832075

6．制御器回路図

■オート反転機能を使用しない場合の制御回路



■オート反転機能を使用する場合の制御回路



R※…ダンパー用ホーロー抵抗器
AC100V用 5Ω5W
AC24V用 1Ω5W

CR…スパークキラー
0.033μF~0.1μF120Ω

CR1.2…スパークキラー
0.033μF以下120Ω

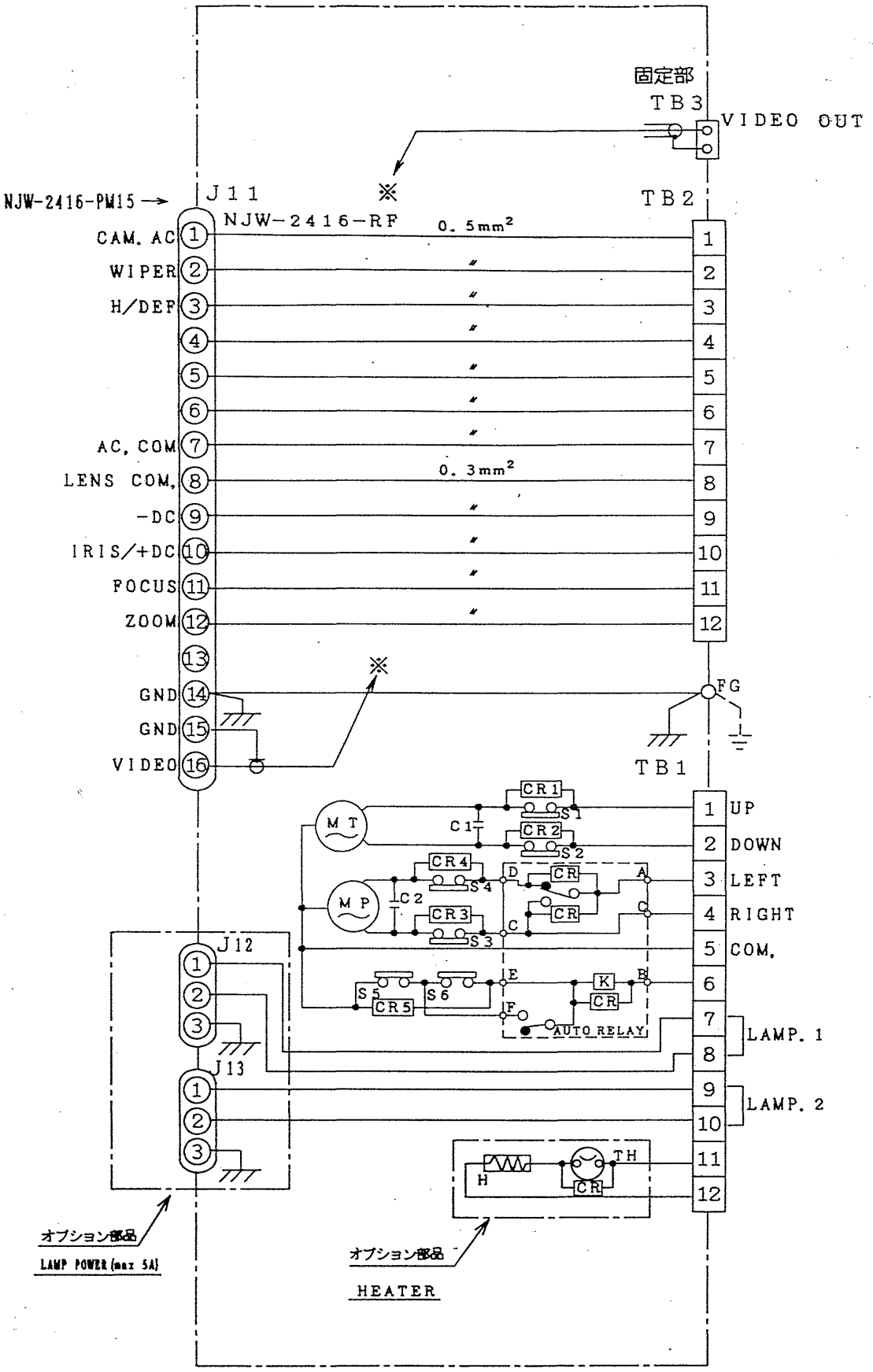
S1…AUTO/MAN切換スイッチ

※ダンパー用ホーロー抵抗はノイズ防止用に接続しています。
電圧降下が大きい場合は、抵抗値を減らして下さい。

1993-12-9483207~16 9/10 SI
RM-17

0 000094 832075

7．本体回路図



1994-03-9483207~16 10/10 SI
RM-17

0000094832075